

花巻市 博物館

目次／P 1 テーマ展「八重樫豊澤一画人を全うした生涯」／P 2-3 令和5年度行事案内／P 4-5 テーマ展「八重樫豊澤一画人を全うした生涯」／P 6 博学連携活動レポート／P 7 館長コラム・行事案内・インフォメーション／P 8 花博コレクション



花巻市
博物館 HP



facebook



Instagram

だより

2023.4
No. 69



八重樫豊澤「山水図」
天保8年(1837)
絹本淡彩
落款「巳亥参月寫於盤遊夢中 豊澤膝明時年七十五」
印章「膝實明印」

八重樫豊澤^{やえがしほうたく}は、江戸時代後期の花巻で約40年間、山水図、人物図、花鳥図などの日本画や書等を多く描いた画人で、作風は多岐にわたっています。

まだ画人として駆け出した頃の作品は、細部まで丁寧に描きながらも、圧倒するような迫力があります。歳を重ね、画人として成熟していく豊澤の作風の変化に注目してご覧いただければ幸いです。

令和5年5月27日(土)から7月9日(日)の期間で、テーマ展「八重樫豊澤 一画人を全うした生涯」を開催します。

令和5年度 展示案内

テーマ展「大集合！花巻人形展」

期間：開催中～5月7日（日）

花巻人形の特徴として、題材の豊富さや、一つの題材における形状や様式の違いによって数多くの種類があります。

本展では、さまざまな種類の花巻人形を一挙に「大集合」させ、壮大な世界へと誘います。

テーマ展「八重樫豊澤一画人を全うした生涯」

期間：5月27日（土）～7月9日（日）

花巻の三画人のひとり、八重樫豊澤の作品を、博物館が所蔵しているなかから紹介します。簡潔な中にも力強い筆線が特徴的な豊澤の表現力や魅力に迫ります。



東方曼倩像

★関連事業

・6月25日（日）

ギャラリートーク

テーマ展「花巻市博物館所蔵

刀剣コレクション展」

期間：7月22日（土）～9月18日（月・祝）

花巻市博物館に収蔵されている刀剣コレクションから厳選し、刀剣や刀装具の魅力を紹介します。

また、近年新たに寄贈・寄託となった刀剣類を御披露目いたします。

★関連事業

・8月20日（日）刀剣研磨実演

・9月3日（日）ペーパーナイフ制作体験

・ギャラリートーク

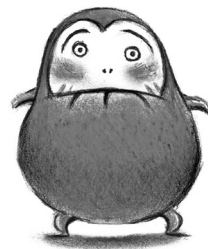


鳳凰御陳太刀拵

特別展「日本中の子どもたちを笑顔にした 絵本作家 かがくいひろしの世界展」

期間：9月30日（土）～12月24日（日）

代表作「だるまさん」シリーズが累計発行部数900万部を越え、子ども達に広く愛される絵本作家、かがくいひろしの魅力を紹介します。



©Hiroshi Kagakui
/Bronze Publishing Inc.

★関連事業

・10月8日（日）記念講演会

・11月3日（金・祝）SP ギャラリートーク

・12月上旬の日曜日 SP ワークショップ

・10月、11月、12月の第3日曜日

読み聞かせ等

テーマ展「北松齋と南部政直」

期間：令和6年1月20日（土）～3月3日（日）

北松齋生誕500年、南部政直の400回忌法要（没後399年）の年にあたる令和5年に、当館所蔵の関係資料や市内の寺院に残されている松齋、政直ゆかりの品々を紹介します。

★関連事業

・記念講演会

・ギャラリートーク

テーマ展「花博コレクション / 斎藤宗次郎」

期間：3月23日（土）～5月6日（月・祝）

花巻市博物館が誇るコレクションから、学芸員が厳選した魅力あふれる資料を紹介します。また、斎藤宗次郎コレクションの中から、明治期の日記を中心に紹介します。

★関連事業

・ギャラリートーク

※内容に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください。

令和5年度 **講座・ワークショップメニュー**

博物館では、花巻の歴史や文化をより詳しく、そして楽しく学んでもらうために、講座やワークショップを行っています。令和5年度も様々なメニューを用意しましたので、ぜひご参加ください。

講座

◎館長講座

- 第1回 6月18日(日)
- 第2回 9月16日(土)
- 第3回 2月18日(日)

◎学芸員講座

- 第1回 5月21日(日)
- 第2回 11月11日(土)
- 第3回 2月25日(日)

◎古文書講座

- 第1回 6月11日(日)
- 第2回 7月9日(日)
- 第3回 8月6日(日)

★各講座聴講無料、要申込
★詳しい内容はHP、SNS等でお知らせします。

ワークショップ

○勾玉づくり

- 日にち：①5月3日(水・祝)
②8月5日(土)
- 内容：滑石を削って、磨いて、古代のアクセサリー「勾玉」をつくります。
- 材料費：340円
- 定員：20名



○台焼きづくり

- 日にち：7月17日(月・祝)
- 内容：台焼き窯元の杉村峰秀さんを講師に迎え、半磁土を使用した器づくりを体験します。
- 材料費：1,500円
- 定員：15名

○鍛冶丁焼きづくり

- 日にち：5月4日(木・祝)
- 内容：鍛冶丁焼窯元の阿部太成さんを講師に迎え、陶土を使用した手びねりによる器づくりを体験します。
- 参加費：1,500円
- 定員：15名

○花巻人形絵付け体験

- 日にち：①7月30日(日)
②3月24日(日)
- 内容：平賀工芸社の平賀恵美子さんを講師に迎え、花巻人形の絵付けを体験します。
- 参加費：1,600円～
(人形によって費用が変わります)
- 定員：20名

○縄文弓矢・火起こし体験

- 日にち：5月5日(金・祝)
- 内容：弓矢を使った的当てと、木を使った火起こしに挑戦します。
- 参加費：無料
- 定員：20名



※講座・ワークショップの場所は博物館講座体験学習室、時間は13時30分～15時までを予定しています。
※お申し込みは開催日の1ヶ月前からです。
※講座・ワークショップともに内容に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください。

令和5年度 テーマ展

八重樫 豊澤

— 画人を全うした生涯 —

期間：令和5年5月27日(土)～7月9日(日)

やえがし ほうたく
八重樫豊澤は、宝暦13年(1763)に生まれ、幼名は豊次郎、のちに兵蔵と改名し、字を藤明、膝明、子明といい、豊澤のほか彭澤、しよし がぎゅうさんじん こざん くがくせんじん ばんゆうてい 處士、臥牛散人、孤山、駒岳仙人、盤遊亭などの雅号を用いました。

また豊澤の書は、川口町で寺子屋を営んでいた父譲りの達筆で、子どもたちに読み書きを教えたほか、求めに応じて手紙の手本を書いたりしました。

豊澤の作品は山水図、人物図、花鳥図など多岐にわたっていますが、中でも得意としたのは、中国の仙人や七福神などの人物画でした。

本展では、簡潔な中にも力強い筆線が特徴的で、画人として歩みだし、晩年まで描き続けた豊澤の表現力や魅力に迫ります。



諸葛孔明図
絹本着色
寛政11(1799)
落款「彭澤處士明」
印章「膝明」、「子明」



松下高士図
紙本着色
享和3(1803)年
落款「彭澤漁者膝明」
印章「膝」、「明」

1 画人豊澤の誕生

豊澤は、寺子屋を営んでいた頃に、4歳年上の小野寺周徳(1759-1814)に絵を学んで、30代の寛政年間(1789～1801)から作品を残していきます。その後は養子に迎えた堅治(1794-1837)に寺子屋の経営を任せて画業三昧の生活に入りました。この章では、寺子屋を隠居し、画人として歩みだした若かりし30代から60代に至るまでの作品を紹介します。



梅に鳥図
紙本墨画
寛政11(1799)年
落款「彭澤処處士明」
印章「膝明之印」、「高陽酒徒」

2 晩年の豊澤

晩年は、剃髪して出家姿をしていたと伝えられています。70歳以降の作品の中には、簡潔な中にも力強い筆線が見られ、豊澤の画風を特徴づけています。また、70歳を迎え、落款にも変化が生じてきます。自身の年齢を記したり、「豊」が大きい字で書かれ、乱れたり落款にも特徴が出てきます。画人として歩んだ人生は、天保13年(1842)9月、80歳で没します。

ここでは、歳を重ねてもまだまだ制作意欲があった晩年の作風を紹介します。



詠帰之図
紙本着色
天保6年(1835)
落款「丙申夏日製
手上毛 渋川客年
燈以為 茶岡大國
手 豊澤藤明時年
七十三」
印章「藤實明印」



三傑図
紙本墨画
天保7年(1836)
落款「豊澤時年七十四」
印章「藤實明印」「豊澤」

3 交流があった人々

豊澤の交友関係は、菅井梅閑をはじめ多くの
文人墨客との交流が知られ、門人には橋本
雪蕉や菅原黒川、森川孫市、娘の豊谷、孫など
家族にも教えていました。展覧会では、遺作が
少ない息子や娘、孫の作品に注目し紹介してい
きます。

今回、花巻の三画人のひとりである豊澤の作
品を制作年代順に展示することで、作家の繊細
かつ大胆な筆づかいや作風の移り変わりを紹介
したいと考えています。緻密な構成で描かれ、
細部までこだわりぬいた作品を堪能ください。

(学芸員 小原伸博)



兎図
紙本淡彩
天保7年(1836)
落款「豊澤時年七十四」
印章「華牧之人 藤明」「豊澤」

関連イベント

○ギャラリートーク

日 時：6月25日(日) 13:30~14:00

場 所：花巻市博物館 企画展示室

※申込は不要ですが入館料が必要です。

活動レポート

「花巻城」を活用した普及活動

盛岡藩の南端に築かれた花巻城は、南に藩境を接する仙台藩を監視するとともに、領内きっての穀倉地帯であり、北上川舟運を活かした経済の要衝である稗貫・和賀地方を統括する政治・経済の重要な南の拠点でした。花巻城を中心に栄えた花巻には、たくさんの人・物資・文化が流入し、現在へと続く歴史と文化が形づくられました。

当館では、花巻城を常設展示室近世コーナーの主要な展示として取り上げているほか、生涯学習や教育普及等において花巻城をテーマとした様々な活動を行っています。今回は、それらの中から今年度実施したものについて紹介します。

花巻小学校5年生「とびだそう!あとどころ」

花巻小学校は花巻城二之丸跡に建つ小学校です。花巻小学校ではゆかりのある花巻城について学ぶため、5年生の総合的な学習の授業の一環として花巻城についての学習を毎年行っています。今年度は、博物館見学と花巻城跡フィールドワークの全2回の学習を行いました。

博物館では、花巻城に関するワークシートを用いた常設展示室の見学と、花巻城に関する絵図や地図を観察する学習を行いました。



絵図を観察する様子

フィールドワークでは、実際に城跡や城下町を歩くことで現在に遺る花巻城の遺構や歴史について実感し、学び取することを目的とした学習を実施しました。

児童たちは、学習を通して生活圏の中に花巻城の歴史遺産があることに気付き発見することで、授業で歴史を学習する前ですが、地域の歴史に興味や関心を抱くきっかけとなったようです。



フィールドワークの様子
(円城寺門前)

一般向け花巻城の講座

花巻城に関する講座は、今年度は外部から依頼を受けた以下の講座を実施しました。

日程	内容	受講者	人数
1 7/13	花巻城・花巻の歴史	花巻市シニア大学2年次	9名
2 10/4	花巻城の歴史	花巻市シニア大学1年次	14名
3 10/18	花巻城跡フィールドワーク	根城史跡ボランティアガイド	14名
4 1/18	花巻開町の先人・北信愛(松齋)91歳の生涯とは	花巻市シニア同窓学院生	55名

上記講座のうち、1・2はパワーポイントを用いた概要学習とフィールドワークを組み合わせた内容で実施しました。3は初めて県外から依頼を受けたフィールドワークでした。普段ボランティアガイドをされていることもあり、地元の城跡と比較しながら熱心に参加してくださいました。4は花巻城代北信愛(松齋)の生涯をたどる内容の講座を行いました。



7/13 概要学習の様子



7/13 フィールドワーク様子
(西御門前)

市内からの受講者は、地域の歴史遺産の価値を再確認し、市外からの受講者は地元とはまた違った歴史文化に触れる機会となったようです。

花巻城御城印

当館では、令和2年7月から南部氏ゆかりのお城を文化財として保護し、整備・活用を図るため、各城館を有する自治体等が連携する「南部お城めぐりプロジェクト」に参加し、「花巻城御城印」を販売しています。毎年、夏頃には歴史上ゆかりのある城館同士の御城印に割印を押印できるイベントも開催し、好評を得ています。御城印や割印を集めながら各地のお城めぐりをお楽しみいただけましたら幸いです。



花巻城御城印
(1枚300円)

御城印や割印を集めながら各地のお城めぐりをお楽しみいただけましたら幸いです。

(学芸員 高橋静歩)

館長
コラム

最後のアイヌ絵師
平沢屏山

北海道の博物館や資料館を訪れると、アイヌの人々の生活や風俗を描いた「アイヌ絵」が展示されていることが多い。これらの中に、鮮やかな青色が目を惹く衣装を着た、独特の風貌のアイヌの人たちが描かれた絵を見たら作者を確認して欲しい。「平沢（平澤）屏山」とあれば、彼こそが「最後のアイヌ絵師」と呼ばれた花巻市大迫町出身の平沢国太郎なのである。

平沢屏山は、文政5年（1822）大迫町下町の平沢四郎兵衛家の長男・国太郎として生まれた。生家は、町の検断を務めたこともある裕福な商家で、店も大迫通代官所の向かいにあった。しかし、父の代には家業が傾き、屏山は23～24歳の頃に弟を連れて北海道の箱館（現函館市）に渡っている。箱館では、絵の才能を生かして舟絵馬などを描いて暮らしていたが、当地の豪商・杉浦嘉七に認められ、嘉七の請負場所であった十勝・日高地方に行き、その地のアイヌの人たちと共に暮らし、アイヌの風俗を熱心に写生した。風采を構わず、大酒飲み

で、子ども好きの気分屋という、何とも破天荒な人物でもあったようである。

しかし、屏山の描くアイヌ絵は、当時箱館を訪れていた外国人の間で大人気となり、誰もが競って買い求めるほどであったという。そのため、屏山の作品の多くは海外に持ち出された。北海道立近代美術館の五十嵐聡美氏は、著書『アイヌ絵巻探訪』（北海道新聞社）の中で「明治の日本人で、これほど世界中の美術館、博物館に作品が収蔵されている画家はいないかもしれない」と述べている。

屏山の生まれた大迫の町では、飢饉の餓死者供養として江戸時代から始まった「あんどんまつり」が行われている。武者絵や仏画を描いた巨大な行灯を山車に乗せて曳き歩く希有な盆祭りで、屏山が大迫に住んでいた頃は、この行灯絵を夢中で描いていたのではないかと勝手に想像している。屏山は、明治9年（1876）再び故郷の地を踏むことなく、54歳で逝去した。

実は、2022年は「屏山生誕200年」の年であった。市立函館博物館や国立アイヌ民族博物館（ウボボイ）では、企画展や特別展示などが行われたが、出身地花巻市では何も計画できなかったことを反省しつつ、いつかは屏山の里帰り展示をしたいと思っている。

（館長 中村良幸）

行事予定 令和5年4月～令和5年7月

【企画展示室】

- テーマ展「八重樫豊澤一画人を全うした生涯」
会期：5月27日（土）～7月9日（日）
（会期中無休）
- テーマ展「花巻市博物館所蔵 刀剣コレクション展」
会期：7月22日（土）～9月18日（月・祝）
（会期中無休）

【ワークショップ】

- ◇P3のワークショップメニューをご覧ください。

【講座】

- ◇館長講座ー1（タイトル未定）
日時：6月18日（日）13:30～15:00
定員：30名 ※要申込
費用：無料
会場：花巻市博物館 講座体験学習室
※5月18日（木）より受付を開始します。

- ◇学芸員講座①（タイトル未定）
日時：5月21日（日）13:30～15:00
定員：20名 ※要申込
費用：無料
会場：花巻市博物館 講座体験学習室
※4月21日（金）より受付を開始します。

※ワークショップ、講座ともに詳細につきましては、博物館へお問い合わせください。

花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松第26地割8番地1
電話：0198-32-1030 FAX: 0198-32-1050
開館時間：午前8時30分から午後4時30分まで
休館日：12月28日から1月1日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学生	250(200)円
	一般	350(300)円

※（ ）内は20名以上の団体割引料金です。
※割安な近隣4館共通券もあります。
※特別展示を行う場合、別に入館料を定める場合があります。

交通案内

- バス／新花巻駅→賢治記念館口
岩手県交通 土沢線 イトーヨーカドー行…約5分
花巻駅→賢治記念館口
岩手県交通 土沢線 土沢駅行…約20分
- 車／花巻空港ICより…約10分
徒歩／新花巻駅より…約25分



URL: <https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/1008981/index.html>

花◊博 コレクション

Hanahaku collection



ナメトコ山記載箇所



稗貫郡下シ沢村鉛村豊澤村山絵図写

安政5年(1858) 205.0×235.0 館蔵

「なめとこ山の熊のことならおもしろい」から始まる、宮沢賢治の童話『なめとこ山の熊』の「ナメトコ山」が記されている山絵図です。

本資料は縦横ともに2メートル以上にもなる大判の絵図で、旧沢内村（現西和賀町）や旧南畑村（現雫石町）の境から現在の花巻市下シ沢周辺までの広い地域が描かれており、周辺の集落名や、それぞれの山、川、沢などの名称が克明に記されています。

ナメトコ山はこの絵図の北西の方角に描かれています。これは、花巻市と雫石町の境にある標高860メートルの山とされており、市民団体の調査やこの絵図の発見が「ナメトコ山」特定につながりました。



「ナメトコ山」が記載されている箇所。絵図にはこの他にも山や沢などの名称が記されており、この地域の様子が分かる貴重な資料です。

(学芸調査員 松橋香澄)